

指定管理者制度導入施設の管理運営実績について(令和2年度)

調査表

施設名	県立農業大学校農業総合研修センター及び宮崎県農業科学公園
指定管理者	学校法人宮崎総合学院
指定期間	平成30年4月1日から令和3年3月31日(3年間)
県所管部課	農政水産部農業担い手対策課

1 施設利用状況

指標	R2	R1	H30	増減理由等
研修実績(延べ人数)	8,406	15,195	15,870	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、施設の休館・利用制限の措置を講じたことや公園イベントの中止、県民の方々の自主的な利用自粛(外出自粛)等が主な理由と考える。
研修宿泊者数(延べ人数)	1,346	1,966	1,738	
農業科学公園入園者数	118,704	186,559	166,892	
農業科学館入館者数	9,563	27,637	30,768	
コメント	利用者減少の主な要因が新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられることから、やむを得ないものと判断する。			

2 施設収支状況

(単位:千円)

収入	R2	R1	H30	支出	R2	R1	H30
指定管理料	66,503	66,503	65,294	人件費	49,493	47,763	49,038
利用料金	1,280	1,120	1,181	光熱水費	10,438	11,454	10,845
生産物売払収入	20,889	17,107	18,902	事務費	8,990	8,894	10,931
その他収入	1,745	18	38	その他	21,437	16,614	14,582
合計(①)	90,417	84,748	85,415	合計(②)	90,358	84,725	85,396
収支差額(①-②)	59	23	19				
コメント	効率的な運用や費用の削減努力により、安定的な運営を行っており、評価できる。						

3 管理運営状況

※下線部分は、令和2年度に新たに取組んだ内容

事項	実施内容	
維持管理業務	清掃	研修センター事務室の日常清掃及び年1回の床面ワックスがけ、農業科学館・管理棟・ふれあい体験館・物産館・フラワーハウスの床面及び窓ガラス清掃、農業科学館雨樋清掃 等
	保守・点検	浴槽水質検査(年3回)、貯湯槽水質検査(年1回)、重油地下貯蔵タンク(年1回)、除草・芝刈り(年6回以上)、高木の枝剪定、ビニールハウス自動開閉装置動作点検(年1回)、環境制御システム動作点検(年1回)、ハウス用加湿機動作確認等(年1回)、ウォーターランド保守管理 等
	警備	(県立農業大学校による警備)
	修繕	公園遊具、ハウスビニール張替 等
	備品等管理	農業機械(トラクター、運搬車)部品交換・修理
	安全対策	危機管理マニュアルの整備、消防訓練の実施、土日祝日の公園職員複数勤務体制、公園遊具点検(年1回)、浴室・浴槽等衛生管理マニュアルの整備、 <u>新型コロナウイルス感染症感染防止ガイドラインの制定、新型コロナウイルス感染拡大防止のための清掃・消毒の強化</u>
	その他	公園全体の植栽管理(芝生、花壇、樹木等)
企画運営業務	サービス提供体制整備	利用者アンケート、農業総合研修センターの休日利用や農業体験休日受入への対応
	イベント等ソフト面充実	検温、消毒液の設置など <u>新型コロナウイルス感染防止対策の実施</u> 、ホームページ・facebookによるPR、農業科学公園ルピナス通信発行 等
	施設設備等ハード面充実	研修センター等換気装置改修、駐車場区画線等の引き直し、物産館エアコン新設
	その他	—
管理運営体制	緊急連絡網の整備	
コメント	みやざき農業実践塾の運営等に精力的に取り組んでおり、就農者の確保につなげている。また、公園の植栽についても季節ごとに適切に管理がなされている。 <u>新型コロナウイルス感染防止のためのガイドラインを制定し、消毒の徹底や利用者への感染予防の呼びかけ等適正に実施している。</u>	

4 利用者満足度状況(利用者満足度調査、苦情・要望対応)

調査等方法	アンケート調査(リカレント研修8講座で実施(回答235人)、宿泊利用者に3回実施(回答18人))
調査結果、主な苦情・要望内容	その対応結果等
職員に親切に対応いただけた。	今後も利用者が快適に宿泊できるよう施設管理に努める。
難易度の高い研修もあった。	講師との打合せを通じて、適切な研修内容(質・量・資料)に努める。

5 総合評価

評価コメント	指定管理通算6年目であり、安定的な運営が行われ、また、農業の普及啓発、新規就農者の育成も精力的に行っている。新型コロナウイルス感染症の対応についても、所管課と連携を密にし、感染状況に応じた施設の開館状況等をHPで迅速に周知するなど利用者目線に立った運営を行っている。
今後の課題と対応	施設や農業用機械等の老朽化が進んでいることから、日常のメンテナンスなど引き続き安全対策を重点的に行う。農業科学館の入館者増加に向けた取組の検討を行う。